

## ワークショップの概要

- 造幣局東京支局（豊島区東池袋 4-42）の敷地の一部を防災公園（約 1.7ha）として整備するにあたり、豊島区では公園を利用する方の意見を参考にして、公園のプランをまとめるためにワークショップを開催しました。
- ワークショップは、計画地周辺の町会代表、協議会・団体、朋有小学校 PTA、公募区民、区内大学の学生が参加して、5回シリーズで行いました。参加者は造幣局の樹木にちなんだ名前（さくら、そてつ、つつじ）の3つのグループをつくり、事務局（豊島区、都市機構、コンサルタント）も加わって、防災公園のプランを検討しました。プランを検討するために、アドバイザー（東京農業大学短期大学部 入江彰昭先生）から助言をもらい、現地や防災公園の事例見学をしたり、小学生の描いた絵や保育園・中高生へのアンケートも参考にしました。グループで意見やアイデアを出し合って最終的に1つのプランにまとめ、ワークショップの公園プランができあがりました。
- 最終回は、“地元で公園の運用や活動を検討していこう”、“公園が完成したら参加者でお花見をしよう”など、今後に向けて継続して関わっていきたいという意向が多数出されました。

さくらグループのみなさん



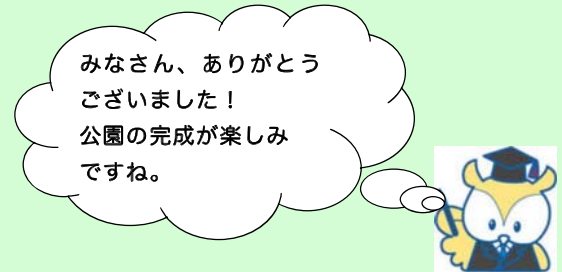
そてつグループのみなさん



つつじグループのみなさん



グループのみなさん



### 第1回：H26.11.15（土）

#### 「防災公園って どんな公園？」

- 24名の方が参加され、防災公園の説明とグループごとに公園に期待することや、日常利用と災害時の利用などについて意見を出し合い、“こどもがのびのび遊べる公園”、“地域のシンボルとなる公園”、“防犯、安全対策が重要”などの意見が出ました。



### 第2回：H26.11.29（土）

#### 「現地と事例 をみてみよう！」

- 造幣局の敷地を見て、防災公園の範囲や樹木などを確認した後、防災公園の事例の北区「西ヶ原みんなの公園」を見学しました。アドバイザーからは、防災施設を日常的に使うようにすると、災害時の備えになるとアドバイスがありました。



### 第3回：H26.12.13（土）

#### 「防災公園のプラン をつくろう！」

- グループごとに公園のテーマや内容を検討しました。さくらグループは「四季のまち公園」、そてつグループは「いつでもみんなが憩えるガーデン」、つつじグループは「禁止事項のない公園」というテーマでプランが提案されました。



### 第4回：H27.1.31（土）

#### 「防災公園のプラン のまとめ」

- 3つのグループの案を事務局が1つにまとめたプランについて話し合い、グループごとにプランの良いところ、追加したいところ、活動したいことなどを発表しました。ワークショップの公園テーマは、「四季のまち みんなの広場」となりました。



### 第5回：H27.3.14（土）

#### 「ワークショップ 報告会」

- 最終回は13名の参加でした。ワークショップの経緯、公園プランと今後の予定などの説明があり、模型やスケッチなどを見てワークショップでまとめたプランの最終確認をしました。ワークショップとプランの感想や、今後に向けての思いを語り合いました。



○ワークショップでいただいた意見をまとめた公園のプランです。

公園のテーマ

四季のまち みんなの広場

意見のまとめ

① いつでもみんなが憩える

- ランチ、散歩、ジョギング、お花見など様々な利用ができる憩いの場をつくりたい。
- こどもから高齢者、外国人も楽しむことができ、交流が生まれる公園にしてほしい。
- 住民参加の活動やイベントなど、コミュニティ活動の場として活用できるようにしたい。

② 豊島区のシンボルになる

- 地域の歴史や特徴を生かした豊島区のシンボルとなる公園にしてほしい。
- 四季折々の美しい景観が展開し、利用者に親しまれる緑と花のある公園としたい。
- 自然とふれあうことができ、環境の大切さを感じることができる場をつくりたい。

③ 安心・安全に利用できる

- こどもたちに目が届くように植栽などの見通しを工夫し、また道路への飛び出しを防ぐスペースを設け、安全に遊べるように配慮してほしい。
- トイレは安心して利用できる配置とし、夜間の防犯面を考慮した時間限定の利用などについて検討してほしい。
- 入口や園路、トイレなど、誰もが障害なく利用できるユニバーサルデザインとなるようにし、災害弱者に対応した施設にしてほしい。

④ 災害に備える

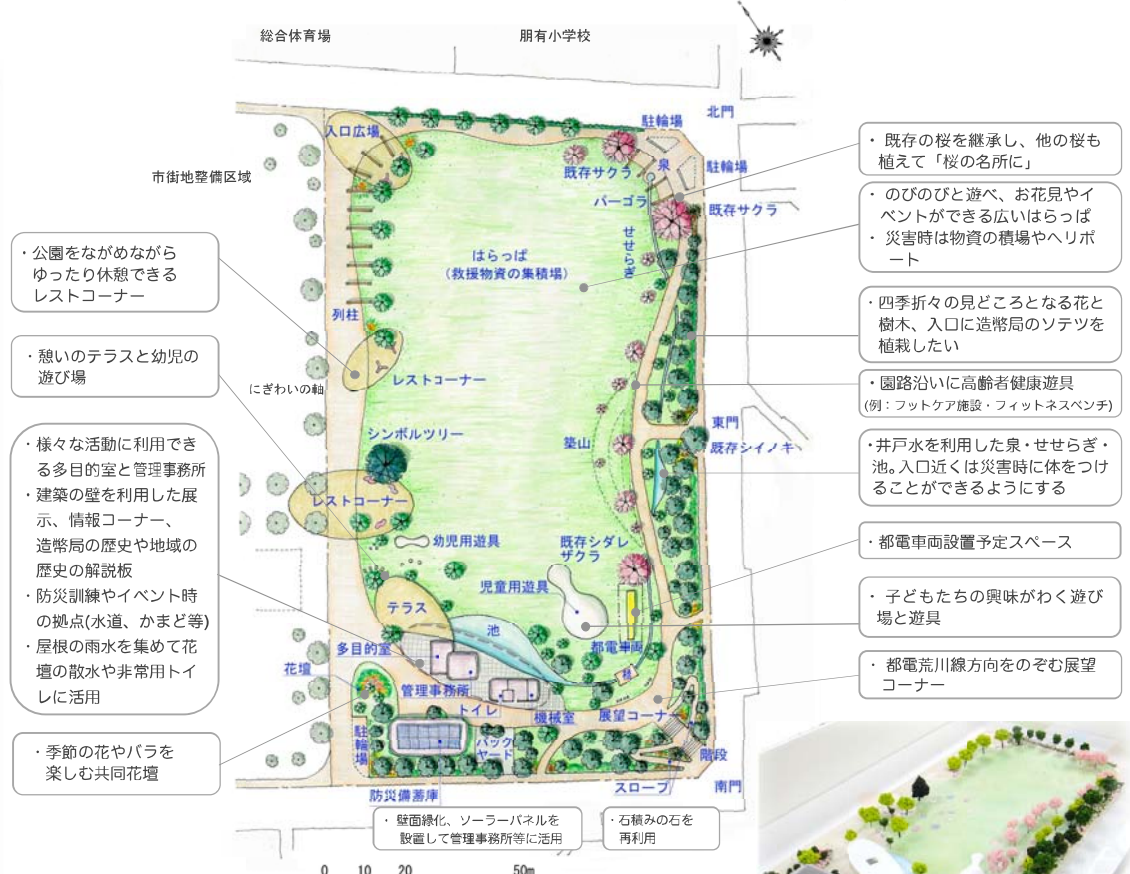
- 災害時には避難場所や救援物資の集積場として利用できるように、緑で守られた様々な活動に利用できる空間と、ヘリコプターが離発着できるスペースの確保が必要となる。
- 防災施設として、防災備蓄倉庫・非常用トイレ・防火水槽・井戸・かまど・自然エネルギー利用の照明などが必要。かまどや井戸などは、災害時にスムーズに利用できるように日常でも活用し、災害用トイレは安全に利用できるように照明や配置に配慮してほしい。
- 住宅が多い公園東・南側は、入口付近には水施設を設置し、災害時には冷却し、日常では眺めて遊べる水辺としたい。また、道路側は防火効果があり、落ち葉が近隣に影響しないように常緑樹を中心に植栽してほしい。

⑤ みんなでルールを考えて利用しよう

- 公園で快適に過ごすことができ、近隣の迷惑にならないように、ボール遊びや犬の散歩、喫煙、音などについて、今後、地域の方などが利用のルールを考え、実行に移していくことが重要となる。

⑥ その他の提案

- 市街地整備区域にカフェ・温浴施設がほしい。
- 市街地整備区域と公園側の空間や通路を一体的にしてほしい。
- 総合体育場を地域開放してほしい。（ボール遊びで使えるように）



・公園をながめながらゆったり休憩できるレストコーナー

・憩いのテラスと幼児の遊び場

・様々な活動に利用できる多目的室と管理事務所  
・建築の壁を利用した展示、情報コーナー、造幣局の歴史や地域の歴史の解説板  
・防災訓練やイベント時の拠点(水道、かまど等)  
・屋根の雨水を集めて花壇の散水や非常用トイレに活用

・季節の花やバラを楽しむ共同花壇

・既存の桜を継承し、他の桜も植えて「桜の名所」に

・のびのびと遊べ、お花見やイベントができる広いはらっぱ  
・災害時は物資の積場やヘリポート

・四季折々の見どころとなる花と樹木、入口に造幣局のソテツを植栽したい

・園路沿いに高齢者健康遊具(例：フットケア施設・フィットネスベンチ)

・井戸水を利用した泉・せせらぎ池。入口近くは災害時に体をつけることができるようにする

・都電車両設置予定スペース

・子どもたちの興味がわく遊び場と遊具

・都電荒川線方向をのぞむ展望コーナー

・壁面緑化、ソーラーパネルを設置して管理事務所等に活用

・石積みのお石を再利用



●模型：はらっぱから公園南西側をみた写真(池と管理事務所)



●模型：公園南東側からみた写真



●イメージスケッチ：はらっぱから築山と遊具のある遊び場側をみる



●イメージスケッチ：はらっぱから池と管理事務所側をみる

\* スケッチと模型は、プランの図をもとに作成したイメージです。